

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670300447		
法人名	社会福祉法人七野会		
事業所名	生活支援センター姉小路 グループホーム姉小路 4階 「いちよう」		
所在地	京都府京都市中京区堀川通り姉小路下ル姉東堀川町76		
自己評価作成日	令和4年10月5日	評価結果市町村受理日	2023年7月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2670300447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2670300447-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク一期一会
所在地	京都市西京区西院久田町5番地
訪問調査日	

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便が良く立ち寄り易く、徒歩圏内に商店街があるという立地の良さが特徴です。町内会の一員として、地域の行事やお地藏さんのお参りに参加してまいりました。施設全体では姉小路版認知症カフェ「姉カフェ」を開催しており、対象者を認知症と診断された方やそのご家族だけでなく、ご高齢の皆様の居場所づくりとして捉えて活動しており、グループホーム職員や入居者も参加し交流の場となっております。

現在は新型コロナウイルス感染予防のため、ご家族と共に行事や外出を楽しむ機会は減っていますが、感染症対応を実施しながらの対面面会や、オンラインを活用した面会等、今できる事に取り組んでおります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

己自部外	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づいた運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに理念について学習を行っている。地域の商店街で入居者と共に買い物をする、町内会の一員として地域交流を図る、認知症カフェの運営に携わるなど地域と共に歩む実践を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	お千度参り・地藏盆・学区運動会等の地域の行事に町内の一員として参加している。区社協カフェなど関係機関の取り組みに参加している。 2020年以降はコロナウイルス感染予防のため、各種地域行事が中止となり地域との付き合いが難しくなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行っている認知症カフェ「姉カフェ」へ職員や入居者が参加している。 地域のお地藏さんのお掃除や前掛けづくり、地域の一員として参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防のため意見照会による開催となった回もあった。コロナの状況下での姉小路の取り組みを知って頂く機会であったり、地域の取り組みを知る機会となり、情報共有に努めている。 会議で得た地域の取り組みの情報をもとに行事へ参加している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	アンケートなどへの回答協力、生活保護ケースワーカーとの連携等を行っている。 運営推進会議の報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の制度研修や部門内の会議で学習会を開催している。 日中は施錠を行っていない。夜間は、防犯のため必要な箇所の施錠以外の不要な施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の制度研修や部門内の会議で学習会を開催している。部門内の会議等で、気になる事や入居者の対応で困っている事はないかを論議している。 役責者による職員ヒアリングを実施し、業務上での困りごとを聞き取っている。		

己 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の制度研修や部門内の会議で学習会を開催している。 入居者の後見人との関わりを通じて制度について学んでいる。リーガルサポートの協力を得て、成年後見制度についての学習会を定期的に開催している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を心がけている。不明点や不安点がないかを随時うかがっている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人内に第三者委員会による苦情受付、部門内に苦情受付・解決担当者を設置している。行政機関そのほかの苦情受付先と共に玄関先に掲示している。 面会時やサービス担当者会議、家族懇談会などでお話をうかがい、反映できるよう努めている。		
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な意見交換や、定例会議、職員ヒアリングを通じて意見を収集し、反映させている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の制度に従い整備をし、各人の状況に応じて働きやすい環境整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修制度に従い研修に参加している。 介護福祉士やケアマネジャーの資格取得のための補助や学習会を法人で行っている。 部門内で学習会を開催している。 法人内の毎月28日開催のオンライン研修に職員が参加し、様々なテーマで学びを深め、地域密着系サービスの管理者研修の講師役等、必要に応じて協力できる体制が整っている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内三か所のGHによる同種部会が定期手にあり、情報交換や情報共有している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の際にはご本人やご家族の困りごとやご希望を丁寧に聞き取っている。 入居前の関係機関と情報交換を行っている。入居後は、ご本人の希望や生活リズムが把握できるように、24時間観察シートを記入。ご本人と話す機会を意識して多く持つ事を意識している。 生活歴や好きな事などを記入するシートを書いていただき、話の糸口としている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の際にはご家族の困りごとやご希望を丁寧に聞き取っている。 サービス担当者会議や日頃の電話・面会を通じてご家族とお話をする機会を意識して持ち、より良い関係づくりができるよう努めている。 入居相談時・契約時等、入居前からご家族の思いに寄り添う事と、意向をケアプランへご家族と話を重ねて意向をうかがっている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定会議で他部門の意見も踏まえ検討している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係	理念にもあるように「共に」暮らしを共有する		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なかまとして接するよう心がけている。		

己 自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナウイルス感染予防のために気軽に面会や懇談会がしにくい状況ではあるが、オンライン面会を含めた面会時、お手紙や電話・メールで様子を伝えし要望をうかがっている。 忘年会や敬老祝賀会等の行事では、ご家族も準備から参加して下さる関係ができてきたが、2020年以降、コロナウイルス予防の観点からご家族参加の行事が難しく		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	最近は近隣の学区からご入居される方も多く、馴染みの商店街や地域行事で昔からの馴染みの方へ会える機会も多い。交通の便がよく、面会に来ていただきやすい立地である。入居前から訪問マッサージを利用されている方もおられたが、コロナウイルス予防の観点から現在は一時的に中止している。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や行事を通じて入居者同士の交流が深まるよう職員が橋渡しをしている。テーブル席の配置は入居者の関係を見守りしながら考えている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された方のご家族には、初盆にお線香とお手紙をお送りしている。 転院や在宅復帰された方には暑中見舞い等をお出ししている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話からの聞き取りやつぶやきを記録に残し共有している。ご家族からの聞き取りを行い、思いの把握に努め、ケアプランや日々の支援に反映させている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に生活歴などの聞き取りシートを記入して頂き情報の共有をしている。必要に応じて在宅時のケアマネジャー等と連携をとり情報共有に努めている。お話をしているときに出た場所や内容を記録に残し共有することで、ご本人が忘れて言えないときのヒントをだすことができている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神面で落ち着かない時や不眠の状態が続いた場合、センター方式の24時間シート等を使用し生活リズムの把握に努めている。 日常のミーティングやユニット会議で、入居者お一人お一人の変化を共有している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回モニタリングを元に会議を行い、情報共有を行い介護計画への反映と実施を行っている。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やご家族や主治医などからの情報をパソコンのソフトを利用し入力している。 日常的なミーティングや定例会議などを通じて情報の共有を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスでの訪問ボランティアや、施設全体で取り組んでいる認知症カフェにグループホームの入居者も参加している。		

己 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2020年以降はコロナウイルス感染予防のため地域に直接出向く機会が減っている。コロナウイルスの影響を受ける以前には、普段の近隣の商店街での買い物や商店街の活動(「あんしんしてお買物しようデー」への参加など)や商店街で会う馴染みの方々とのお話、学区の行事(運動会など)町内行事に参加している。コロナ渦の中でもできる地域との繋がりが、地域資源の把握として、運営推進会議でご紹介いただいた公園体操に参加できた。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医による定期的な訪問診療を行っており、祝日・夜間含めて24時間相談・連絡がとれる体制をとっている。必要に応じて専門医との連携もとっている。ご本人やご家族の思いを聞きながらターミナルケアも実践している。		
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	かかりつけ医の訪問診療時、また緊急時などに様子を伝え受診に繋げている。細やかな情報共有が行われている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室や入院先の主治医、リハビリ職などとカンファレンスなど通じて情報共有している。できるだけ面会にうかがいご様子を把握し、ご本人やご家族の思い、退院後の課題を共有して退院後の支援に繋げている。		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針については、契約時にご家族へ説明している。サービス担当者会議などの機会にご本人やご家族の終末期についての意向をうかがっている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルの整備や学習会を通じて学んでいる。		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練(昼間想定・夜間想定)や水害時の土嚢積みの訓練を行っている。京都市のシェイクアウト訓練に参加。町内と防災協定を結んで協力体制を築いている。非常時には近隣住人の協力を得られるようになっている。自家発電機を設置し方が一の停電に備えている。		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロアでの申し送りの際は、申し送りをする場所や内容について配慮している。介助の際には指示的にならないように、さりげない声かけでお誘いしている。入居者の方に応じて、筆談や質問カードを利用している。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを上手に表せない方も多いので、ゆっくり話ができるように言いやすい雰囲気を作るようにしている。着たい服、食べたいおやつやメニュー、今すぐしたい場所など、小さなことでも生活の中で選ぶことができる場面を大切にしている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の見守りの上ではあるが、できるだけご本人の希望に添えるように支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそりやお化粧、カットや毛染め、着たい服を選ぶなど希望に添ってできるように見守りや支援をしている。美容室に行きたい方もおられるが、コロナ警戒の為に控えていただいている。職員が訪問美容師になりきりカットしたり、雰囲気を楽しめる工夫を行っている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の商店街への買い物、調理や下ごしらえ、盛り付け、配膳、片付けなどできる事を職員と一緒に作業している。おせちなどの行事食を作っている。昼食にビールを楽しまれたり、オンライン面会でご家族と乾杯して楽しんでいる入居者もおられる。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて詳細に記載できる表を活用したり、普段の摂取量の把握と変化を共有、支援を行っている。お好みの飲み物(種類や温度)等を把握してお出しする。咀嚼力や嚥下力に応じて、食事や水分の形態を調整している(トロミ付き水分・一口大・ペースト等)。		

己 自部外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が三食後には行っていないが、口腔ケアの声かけや介助を行っている。必要に応じて歯科受診を行っている。お好みの歯磨き粉や、状態に応じて歯間ブラシや口腔用ティッシュを活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に応じて排泄・排便のチェック表を使用。 トイレの場所が分からない・トイレでの動作のが分かりにくい方もおられるため、さりげなく誘導できるよう心掛けている。 尿量や時間帯に応じて適切なパッドを使用し、日中はできるだけトイレに行けるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材やヨーグルトをお出しし、水分摂取や軽い運動・腹部マッサージをすることでできるだけ自然な排便をうながしている。 主治医と相談し必要に応じて下剤の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は職員の見守りのできる日中の時間帯に限られるが、中でも入る順番は希望に添えるようにしている。着湯湯やゆず湯を行い季節を楽しんでもらったり、保温や清潔のために足浴を随時実施。 入浴拒否のある方には足浴や手浴、部分清拭や更衣を行っている。声掛けの仕方の工夫をして、お風呂に入る気になれる声掛けを職員で共有している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自身のペースで昼寝や休憩ができるように声をかけをしている。 部屋によってはロールカーテン等を併用し入眠しやすい明るさが休んでいただいている。 ベッドサイドの整理、寝具やパジャマを心地よいものにしていく。 日中少しでも体を動かすことで、夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局からのお薬情報をファイリングし必要な情報がすぐ見られるようにしている。薬剤師とも適宜情報共有を行っている。 嚥下の状態に合わせた薬の形態変更、新しく薬が開始になった時の様子観察、心身の状態に合わせた服用になっているかなどを主治医と情報交換し、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や趣味、歌、お話、晩酌、散歩などそれぞれのお好きなことにお好きな人と取り組めるように支援をしている。家事作業などが難しくなってもその場の雰囲気を楽しめる時には作業の輪の中で過ごしていただいている。		



己 自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と一緒に月参りや外食、普段の買物やお地藏さんのお参り、散歩、喫茶・食事外出やドライブなどを行ってきたが、2020年以降はコロナウイルス感染予防のため外出支援がなかなか行えていない。 屋上で体操をおこなったりおやつやお弁当を食べる、お地藏さんのお参りなどを行っている。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ちの現金は管理が難しく、現在は対応していない。 個別の買い物では、必要な物・お好みの物・適切な金額の物が購入できるようにご本人やご家族と相談して購入できるよう支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方には電話やメールの取次の支援をしている。ホームにかかってくる電話をお繋ぎしたり、写真を添えてお手紙を書くなどの支援を行っている。コロナウイルス感染予防のため、オンライン面会を開始した。		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがきつい場所にはすだれを設置。エアコンや床暖房で室温の調整をしている。加湿器・乾湿計を設置。コロナウイルス感染予防のために特に換気に気を配ようになった。季節の花を入居者と一緒に飾っている。テレビ番組やBGMは、入居者の様子に合わせて音量や内容を変えている。入居者の関係性をみながら、席の配置の工夫をしている。廊下に写真を掲示することで、話題ができて入居者同士で楽しんでおられる様子も見られる。 入居者の写真を取り入れた季節の飾り等、楽しめたり話題づくりになる工夫をしている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやタタミコーナーなど、食事の席から少し離れてゆっくり過ごせる場所をつくっている。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や趣味の道具、アルバム、ソファやお仏壇などを持参されている。持参された小物を季節ごとに飾りつけたり、ご家族の写真やホームで作ったお誕生日のお祝い色紙などを飾っている。屋上で詰んだ花をご自分で活けている方もおられる。 タンスやベッドの位置、ベッド柵の形状はご本人の状態に合わせて検討・設置し安全に歩いていたできるようにしている。 居室の入り口に目印や表札を掲げている。		
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下等に手すりを設置。押し車利用の方や伝い歩きをされる方安全に移動できるように共用部分や居室の間に家具を配置し動線を誘導している。ベッドの高さや手すりの形状を状態に合わせて検討。夜間は洗面所の手前に人感センサーのミニライトを設置し、安全にトイレに行けるようにしている。		